

台湾の楽しみ方と注意

雨あり絆あり笑顔ありの6日間

2026年3月5日から同月10日まで、11期生が見学旅行で台湾を訪れた。旅程では、活気に満ちた観光地巡りや、現地の高校生・大学生との交流などが行われた。日本とは異なる環境や空気を肌で感じる、充実した6日間となった。

ここでは、新聞局から台湾を回る上での注意点を紹介する。

まず、出国時は飲みかけの水は捨てられてしまうので、手荷物検査前に捨てるか飲み干しておくことよい。

九份では、細い階段にたくさんの観光客が集中するため、押されて転んでしまわないよう注意が必要だ。写真撮影についても、ほか



▲飛行機の搭乗口に向かう11期生

の観光客の方の邪魔にならないよう、踊り場などの広い場所で楽しむようにしよう。

また、雨が降っている時は階段が水で滑りやすくなる。加えて、傘が密集するため、非常に狭いスペースを移動することになる。後輩諸氏は、階段での転倒に気を付けてほしい。

3日目の夕食会場である逢甲夜市では、バ

イクに警戒してほしい。

こは、夕方からバイクの侵入が禁止されるにもかかわらず、バイクが高速で道を過ぎ去っていくことも珍しくないので注意が必要だ。

宿泊するホテルは1日のみの滞在になるため、ここに荷物を忘れても取りに戻ることはできない。また、スマホや財布といった貴重

台湾 悲喜交々

見学旅行を通して多くの思い出を作った11期生であるが、往々にして大変なエピソードもつきものである。

九份の観光当日は大雨であったものの、生徒は食歩歩きやお土産の購入などに興じていた。特に、龍など縁起が良い絵を組み合わせて文字を描く「花文字」は、カラフルで運氣が上がることでお土産に購入する生徒が多くみられた。しかし、カッ

と合流できた時には安心して涙が出そうになったほだ。迂闊な一人行動は控えるべきだ。

さらに、帰路では忘れ物や失くし物が多発した。もう少しで帰れるという安心感から気が緩んだのかもしれない。帰るまでが見学旅行であることにしっかりと留意した上で旅行を楽しんでほしい。

(佐野・本家)

打つ生徒もいた。

3日目の夜に訪れた台中市の夜市では、台湾名物の地瓜球（さつまいもボール）や大鶏排（ダージーパイ）などの露店が立ち並んでいた。生徒らは屋台での食事を通して台湾の異国情緒を楽しんだ。だが、食事を楽しむ一方で、お腹を壊してしまつ生徒もいたようだ。

後輩には、衛生管理に不安のある屋台では購入しない、火入れが不十分である食品は食べない等の自己防衛策を講じてほしい。

4日目は再び台北に戻り、921自身教育園区や故宮博物院、忠烈祠といった教育・文化施設の見学を楽しんだ。特に故宮博物院は、

旅程紹介

- 1日目 (3/5) 飛行機で移動、台湾到着
- 2日目 (3/6) 現地高校交流、十份訪問（天燈上げ）、九份探索
- 3日目 (3/7) X-PARK訪問、台湾高速鉄道で台中移動、逢甲夜市
- 4日目 (3/8) 921地震園区訪問、故宮博物院忠烈祠車窓見学
- 5日目 (3/9) 中正記念堂見学、台北市内自主研修（現地大学生交流）
- 6日目 (3/10) 台湾出立、飛行機で移動

開成校新聞

発行 開成中等新聞局
顧問 三上 加藤 本家
編集長 加藤 本家
制作者 加藤 本家 佐野

紙面紹介

1面 生校詳細
2,3面 地旅注意
4面 行事

11期生見学旅行 in 台湾

2026年3月5日から同月10日まで、11期生が見学旅行で台湾を訪れた。旅程では、西松高中との交流やB&Sプログラムといった、現地の人々との交流機会が多く設定されている。両プログラムに参加した二名の現地学生から話を聞いた。

B & S 謝昀珊さん

最終日の台北研修では、B&Sプログラムという取組が行われた。これは、現地の大学生の方がガイドとして、生徒側が事前に作成したプランに沿って市内

を案内してくれるというものだ。

B & Sプログラムに参加した、大学生の謝昀珊さんにお話を伺った。謝さんはプログラムに参加した理由とし



▲B & Sの活動で来好を訪れた謝昀珊さん

このプログラムを通して謝さんは、日本人

が大切にしている「氣遣い」の文化を学んだという。「私が話したのに、女の子達が楽しんで返してくれたので、その姿がとても可愛くて嬉しかったです」と話した。

台湾のおすすめてについて、「Milkshop」というドリンクショップのタピオカミルクティーを挙げた。「はちみつでつくられた白いタピオカが入っていて、食感が面白いです」と熱弁した。また、台北101の地下1階で売っている卵黄入りのパイナップルケーキも同時に挙げ、しつとりとした食感でお土産におすすめだと語る。

台湾での注意点として、地下鉄でのルールについて言及した。台湾では、駅構内と車内での一切の飲食が禁止されているため、利用

する際は留意して乗車してほしい。

最後に、一緒に市内を巡った開成生への感謝を述べた。そして後輩諸氏へも「ぜひこのプログラムを楽しんで、素敵な思い出を作ってください」と綴った。

(加藤・佐野・本家)

西松高校 馮子杰さん



▲西松高校バスケット部の馮子杰さん

2日目に訪れた西松高校は、開成と同様にIBプログラムを提供する公立高校であり、本校とは3年前から交流を開始している。

西松高校に通う3年生の馮子杰さんに取材を行った。馮さんは、日本の学生と話す機会は今回が初めてだというので、私たちとの交流を通して気づきがあったという。最初の印象は、話し方ややりとり、そして笑顔から、礼儀正しさを感じたと振り返った。「どんな時でもきちんと態度を保つ姿勢をとって尊敬しています」と称賛の言葉を送った。また、プレコズモサイエンス

の成果発表からも、「少しシャイな人もいましたが、それでもステージで発表しようとする姿を見て、私も勇気をもらいました」と励まされたという。

西松高校の1番の魅力は、部活動の豊富さであり、「きつと1つは自分の興味に合うものが見つかるはず」と語る。ホームページに掲載されているため、開成の部活と見比べてみてほしいと話した。

最後に、バディへのお土産について伺った。形として残るお土産は、長く大切にされる心の中に残り続けるため、おすすめだという。「お菓子類ももちろん

また、2日目の西松高校にて、異文化交流が行われた。現地の生徒からは「ディアポロ」が披露された。別名空中ゴマとも言われ、2本のスティックと紐で、空中で回転するゴマを操るものだ。本校からは、得意な生徒を中心に「けん玉」を披露した。大盛況を見せたこのパフォーマンスは、両校交流のよいスタートとなった。

(本家)

写真で巡る五泊六日

肌で感じる異国情緒

旅程では、活気に満ちた観光地巡りや、現地の高校生・大学生との交流が行われた。日本とは異なる環境や空気を肌で感じる、充実した6日間となった。ぜひ、写真や文章を読み、台湾の異国情緒や文化を追体験してほしい。

1日目

集合前に各自昼食を済ませ、新千歳空港に11時50分に集合した。

台湾は亜熱帯気候にあり、札幌に比べて湿度が高く暖かい。約5時間のフライトを経た一行は、異国の空気にさらされ、皆この先の5泊6日に心を躍らせていた。入国審査を終え、台北のホテルに到着し、一生に一度の見学旅行が幕を開けた。

2日目

西松高校へ訪問した。現地の生徒から素敵な歓迎を受けたのち、伝統的な文芸を中心に異文化交流を行った。その後、バディとなった生徒の案内で教室へ移動。ここで現地の授業を体験し、プレコズモサイエンスの研究発表を行った。発表前は硬い表情を見せていた



▲けん玉を披露する品田さんも、発表が終わると、現地校生との会話に笑顔を見せていた。

昼食は、タピオカやレモンケーキなどの台湾名物を味わった。その後、日本から持参した500円程度のお土産をバディへ渡し、別れを惜しんだ。

西松高校を出て、天燈上げをするために十份へ移動。なりたい姿や将来の夢など、それぞれの思いを筆に込める姿が印象的であった。墨汁で汚れた手やカップを綺麗にしてくれたのが、まさかの大雨だ

というのはなんとも言えない。十份を巡り終わると、「千と千尋の神隠し」の舞台と噂の九份へ。夜空に映える赤い提灯は、映画を彷彿とさせる魅力があった。夕食は、台湾ならではの赤い円卓を囲み、次々に運ばれてくる台湾料理に新鮮みと楽しさ



▲九份の魅力あふれる提灯

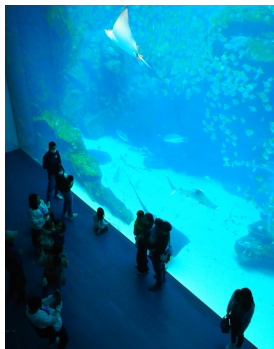


▲台北101の公式キャラクター“Lucky Red”

を感じ、香辛料の「八角」に対して感想をつぶやいていた。

3日目

この日は、台中市内のホテルに宿泊するため、台北のホテルをチェックアウトして移動した。スーツケースを預け、一日分の荷物をバスに載せて台北に暫しの別れを告げた。



▲X-PARK内の水槽

横浜八景島と台湾の関係や水族館の建設過程、日本と台湾との間のギャップと解決策について詳しく知ることができた。

その後、昼食をとり、高鉄桃園駅から台湾高速鉄道に乗り台中市に向かった。約123キロを時速265キロで駆け抜け、30分で台中駅に到着した。



▲胡椒餅を頬張る友田先生と鈴木(勝)先生

その後、逢甲夜市で各自夕食をとった。夜市とは、夕方から深夜にかけて営業する、屋台や露店が密集した市場のことであり、台湾名物の一つである。我々が訪れた逢甲夜市は、台中市内の主要な夜市として知られており、メジャーなものから変わり種まで幅広く楽しむことができる。日本にはない独特の屋台飯に戸惑いながらも、先生と出くわすイベントも起こり、各々が大いに散策を楽しんだ。

4日目

バイキング形式の朝食後、ホテルをチェックアウトし、921地震教育園區へ向かった。台中郊外に位置する当施設は、1999年9月21日に台湾中部の南投県を震源として発生した大地震の被害を伝える教育施設である。

屋内では、地震発生前後の様子や復興の歴史に関する資料を、屋外では、倒壊した光復国中の校舎や、地上に現れた断層を見学した。

開成校新聞

見学後バスに乗り込み、約2時間で台北市内の故宮博物院に到着した。ここは、中国王朝の皇帝が集めた至宝等、新石器時代から現代までの約65万点もの美術品や歴史的資料を収蔵・展示している博物館である。

博物院を背に学年写真を撮ったのちに、ヘッドセットで添乗員の解説を聞き、後半は自由見学を楽しんだ。清朝時代の工芸品や文書が多く展示されており、台湾の歴史に深く触れる機会となった。



▲故宮博物院内での写真スポット

その後、車窓から忠烈祠を眺めて夕食会場へ向かい、モンゴリアンバーベキューを楽しんだ。これは、客が選んだ食材と味付けで屈強な料理人が肉野菜炒めを作ってくれ、興味深い体験となった。

5日目

6～7人のグループに分かれて自主研修を行った。午前中は現地の大学生に台北市内を紹介してもらい、午後は事前に自分たちで計画していた場所を巡りながら、それぞれのグループで台湾観光を楽しんでいた。現地の大学生との交流では、実際に足を運ぶことで感じられる台湾の日常に触れることができた。ここでは、2つの班が策定した研修行程を写真とともに紹介する。



▲中正記念堂広場での1枚



▲台湾駅前での集合写真

台北植物園
台湾総督府
張家清真黃牛肉面館
animate
藝廊石書店
台湾駅で集合写真撮影
台北101
来好
すき家



▲台北天后宮前でお祈りする生徒達



▲土産物店で物色する2人

幸福堂
台北101 鼎泰豊
来好
金鶏母
薑心比心
台北霞海城隍廟
夜市



▲タピオカミルクティーを楽しむ2人



▲現地で親しまれる牛肉麵



▲自主研修グループの記念写真

6日目

最終日は、ホテルからのモーニングコールで朝4時頃に起床。台湾を出国する準備をし、朝5時頃に桃園空港へ向かった。長時間のフライトを終え、昼頃に新千歳空港に到着し、無事帰国を果たした。台湾でのたくさんの思い出とお土産を手に帰路に着き、11期生の台湾見学旅行は無事幕を閉じた。(加藤・佐野・本家)

旅行の裏側へ...

台湾に向けた準備について、現在の5、6年生と台湾へ赴いた鈴木勝視先生に話を伺った。

生徒たちは11月頃から台湾に向けた準備を開始した一方、先生方は4月からの約1年間にわたる長期的な期間で準備をしていたという。帰国直後から反省点等を3月中にまとめ、新年度開始と同時に新4年生の見学旅行準備を始めるスケジュールだ。

また、台湾見学旅行前の役割分担について「イベントや事前学習などのプロジェクトにそれぞれ先生方を配置し、特に部屋割りの名簿作成は機械に得意な先生を配置していました」と得手不得手を把握し、円滑な準備をしていたようだ。見学旅行中は、クラスは基本的に担任が担当し、部屋での点呼では、男子の部屋には男性の先生が、女子の部屋には女性の先生が充てられるように工夫をしていた。生徒が就寝する23時以降には、体調不良者の共有を行い、朝は生徒よりも早く食堂に向かって点呼の準備をしていたという。常に先行動し、研修を支えていたのだ。

台湾中の良い思い出として、「八角や臭豆腐など癖のある匂いに対しても楽しそうな反応を見せてくれた、1年間準備していた甲斐がありました」と、11期生が些細なことに対しても楽し気に反応してくれたことを嬉々として語った。

(加藤・本家)